



新吉田

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinyoshida>

横浜市立新吉田小学校

一輪の花から学ぶこと

～25年の歩みに感謝を込めて～

学校長 税田 栄一

朝夕の心地よい風に秋の深まりを感じる季節となりました。その一方で、近年は豪雨や台風による自然災害も頻発しており、自然の恵みとともに、その大きな力について改めて考えさせられます。

さて、2027年3月19日の「横浜グリーンエキスポ」開幕に向け、市内各所で関連する取組が進み、開催への機運が高まっています。本校でも、現4年生が「港北育苗プロジェクト」に参加し、育てた花が新横浜公園の花壇を彩りました。また、環境福祉委員会の児童はグリーンエキスポの花壇で使われる堆肥づくりに取り組むなど、子ども達が自然や緑に関心を向ける貴重な機会となっています。

このような緑や自然への関心の高まりとともに、みなさんは本校の職員玄関と職員室前に、いつも美しい生け花が飾られているのをご存じでしょうか。この生け花の取組は、今から約25年前、4人のボランティア「よつば」のみなさんが始めてくださったものです。活動が続ける中でメンバーは減りましたが、現在は「しんしょう・応援隊」の活動の一つとして、藤井様とおよそ4年前から加わられた溝田様のお二人が、月に2回、季節の生け花を心を込めて生け替えてくださっています。お二人が所属される「MOA 山月光琳花クラブ」では、「花と話をしながら、花の心を生ける」という言葉を大切にされているそうです。花を選ぶ際も、形式的な季節感にとらわれず「見て元気になる」「生き生きしている」といった直感を大切にされています。「花を見ることで子ども達の心の癒やしになってほしい」「花のようにたくましく、楽しく安全に過ごしてほしい」とお二人は語ります。なお、お二人の作品はグリーンエキスポでも展示される予定です。

花や緑に親しむ体験を通して、生命の大切さや思いやりの心を育む取組に「花育（はないく）」という言葉があります。お二人が長年届けてくださっている生け花は、まさに子ども達の豊かな心や感性を育む「花育」そのものです。お二人が生けてくださる一輪の花が子ども達の心を和ませるように、学校における生活・学習環境は人の心に大きな影響を与えます。校庭や教室といった施設環境はもちろんですが、温かな思いをもって子ども達と接する私達大人自身もまた、子ども達の心を育む大切な「環境」の一つであるということを、あらためて自覚したいと感じております。

先日、お二人にお話を伺った日の生け花には、「ドライアンドラ フォルモーサ」「ワレモコウ」、そして大輪の「ダリア」が生けられていました。ダリアの花言葉の一つに「感謝」があります。25年もの長きにわたり、子ども達の心を温かく包み込んでくださった「よつば」の皆様には深い感謝を捧げるとともに、慌ただしい日常の中でふと立ち止まり、一輪の花から潤いをもらえそうな心豊かな学校づくりに努めてまいりたいと思います。



※この画像は生成AIによって作成されたものです。